新宗連スローガン
信教の自由を守ろう
信仰心を広めよう
宗教協力を進めよう
世界の平和に貢献しよう

新宗教新聞

2019年（令和元年）
10月28日
第1119号

発行所
新日本宗教団体連合会
（略称 新宗連）
〒151-0053
東京都渋谷区代々木5丁目57番10号
電話（03）3468－5551（代表）
（03）3468－5588（編集）
大阪事務所 〒550-0006
大阪市西区江之子島1丁目8番21号111
電話（06）6443－7178

新宗連
全国総会

令和2年度 事業大綱を決定
結成70周年に向け「特別委員会」設置

新日本宗教団体連合会（新宗連、岡田光央理事長）は10月8、9日、大阪市で「平成31年度新宗連全国総会」を開催した。8日は立正佼成会大阪普門館を会場に第30期第5回理事会を開き、令和2年度の事業大綱を決定。2021（令和3）年の新宗連結成70周年へ向け「特別委員会」の新設が決まった。また、新宗連が北朝鮮情勢の平和解決を祈願する「祈りのことば」を、多岐にわたる国際問題の解決まで広げた文言とすることも承認した。9日は大阪天満宮での正式参拝と隣接する天満天神・繁盛亭で人権を学ぶ学習会が開催された。

8日午後1時半過ぎから第30期第5回理事会を開催。近畿総支部の藤井庸佐会長の受け入れあいさつに続いて、岡田光央理事長が開会あいさつを述べ、議事に入った。前回議事録確認の後、新たに選任された中村史郎理事（円応教理事長）と藤井庸佐評議員（円応教責任役員）がそれぞれあいさつを述べた。

報告事項では、新宗連会館の改修工事の進捗状況や、本部と各委員会・機関、総支部、新日本宗教青年会連盟（新宗連青年会）、宗教界から、前回理事会（6月11日）以降の活動報告を行った。

この中で、新宗連青年会の宮口弘道委員長は、9月9日に上陸した台風15号による被害に対して、世界宗教者平和会議日本委員会（WCRP日本委）と協働し、再び「VOWS（バウズ、Volunteers of WCRP&SYL）―『詳細参照』」として千葉の被災地で支援活動を行うことを報告（別掲）。加盟教団に協力を呼び掛けた。

審議事項に移り、岡田理事長が将来構想検討プロジェクト座長の宮本惠司常務理事から同プロジェクトの答申を受けたことを報告した。答申結果に基づき、同プロジェクト組織事業部会長の石倉寿一常務理事が、新宗連青年会地方連盟及び包括委員会を内部組織化すること、これに伴う「青年育成資金」の新設等を提案。審議の後、承認した。

令和2年度事業大綱案については、原案通り承認。大綱の重点項目は前年の課題を引き継ぎ、以下4点。

①一人ひとりが信仰心を深めるとともに、より多くの人々に信仰の尊さを広め、宗教心と信仰心が尊重される社会づくりを進める。

②新宗連の結成理念である「信教の自由」はじめ「基本的人権」「国民主権」「平和主義」など宗教活動を支える憲法の各条文改正問題を注視し、「国民投票」に対する理解を深める。

③「いのちを尊ぶ世界」の実現に向け、緊迫する国際情勢や地球環境汚染問題を注視し、宗教者、宗教団体、新宗連等ができる社会貢献活動について検討する。

④次世代を担う宗教青年の教化育成と、青少年の信仰心の醸成。

続いて今年2月の理事会で提起された意見を基に、これまで新宗連で使用してきた「北朝鮮情勢の平和解決への祈り」を、大綱に合わせて多岐にわたる国際問題の解決まで広げた文言に修正した「祈りのことば」（別掲）とすること、今年度から全国で展開している「教化活動懇談会」を継続して推進することも承認。「祈りのことば」は新宗連本部・総支部・協議会の会合などで読み上げる。

また、2021（令和3）年に新宗連が結成70周年を迎えることから「特別委員会」を設置することを提案。審議の結果、原案通り承認した。

令和2年度の主な会議及び行事日程では全国総会を来年10月8、9日に中国総支部受け入れで開催、「第31回教団人セミナー」は来年2月19日の理事会前日に行うことを申し合わせた。

一連の審議を終えた後、環境問題について意見交換が行われた。理事らからは教団や個々人での具体的な取り組みが述べられたほか、「リサイクルばかりに目が向きがちだが、3R（Reduce：減らす、Reuse：再利用、Recycle：再資源化）の最初は『減らす』であり、それが一番重要」「『使い捨て』という考え方を変えていかなければならない」などの意見が挙がった。

全国総支部会議―理事会決定事項を確認

理事会後、10月8日午後4時半からは第30期第2回全国総支部会議を開催した。岡田光央理事長の開会あいさつの後、議事に移り、理事会での決定事項の確認を行った。

この中で、青年会地方連盟及び包括委員会の内部組織化に伴い、新たに地方連盟の規約ができたことから、これまで任意の設置であった各総支部（協議会）での青年担当総務（委員）が必置となり、各総支部（協議会）での青年担当総務（委員）選出を依頼した。

続いて、企画委員長の田澤清喜奥羽総支部会長が来年度も継続が決まった「教化活動懇談会」の推進について、地域でできるだけ実施してほしい旨を述べ、この後、同懇談会の具体的な取り組みや成果について意見交換を行った。

理事会後に開かれた総支部会議

祈りのことば

私たちはアジアをはじめ、紛争や対立、不信関係にある、世界のあらゆる国際問題が、対話や協調により平和的に解決されることを祈ります。

私たちは、「二度と戦争を起こしてはならない」「国際問題を武力で解決してはならない」という「絶対非戦」精神のもと、世界の恒久平和と「すべてのいのちを尊ぶ世界」の実現に向け、祈り続けます。

大阪天満宮を正式参拝
隣接の繁盛亭で学習会

9日午前9時半から、北区天神橋の大阪天満宮（寺井種治宮司）を正式参拝。本殿に全国総会参加者らが入殿し、祭儀が執り行われ、岡田光央理事長が代表し玉串拝礼を行った。

大阪天満宮・本殿での正式参拝

この後、境内の天満宮会館で寺井種治宮司があいさつ。創建一千年余の大阪天満宮の由緒と神事、隣接する寄席・繁盛亭の由来などについて解説。続いて近畿総支部の藤井庸佐会長が、参拝後に繁盛亭で行う学習会の趣旨を説明した。

繁盛亭での学習会は、落語家の桂こけ枝さんが出演。こけ枝さんは落語の魅力を古典・創作落語から、オペラ、芝居、人権、子育て、福祉、健康まで幅広いジャンルで伝えている。

こけ枝さんははじめに「こけ枝のほのぼの人権噺（ばなし）～人生互いに思いやり」をテーマに講（口）演した。先天性股関節脱臼を抱え、社会の差別と偏見に立ち向かった自身の体験と人権問題の捉え方を、辛いエピソードも笑いに変えながら、わかりやすく語った。その中で「差別はその人のいのちに関わる問題。差別する人と差別される人の当事者間では解決しません。周りの人が〝それは間違いだ！〟と声を挙げていかなければなりません」と説いた。休憩をはさみ、再びこけ枝さんが高座に上がり、古典落語の代表作の一つ「井戸の茶碗」を演じた。

近畿総支部の松本貢一副会長が閉会あいさつを述べ、全国総会を終了した。

VOWS
台風被災地の千葉県へ
ボランティア募集と派遣 開始

新日本宗連青年会連盟（新宗連青年会、宮口弘道委員長）は9月8、9日に東京湾を北上した台風15号が千葉県下の各市町村に甚大な被害をもたらしたことを受け、10月から、世界宗教者平和会議日本委員会（WCRP日本委）と協働によるVOWS（バウズ、Volunteers of WCRP&SYL）ボランティアの募集と派遣を開始した。

WCRP日本委が9月中旬から、千葉県館山市と鋸南町に調査隊を派遣したことを受け、新宗連青年会としても情報共有とボランティア派遣の可能性を探ってきた。今後しばらくボランティアのニーズが見込まれ、受け入れが県外にまで広がったこともあり、10月中旬、正式にVOWSボランティアの募集と派遣を開始した。

10月15日には4人が鋸南町でボランティアに参加。他のボランティアと共に落ちた瓦やがれきの撤去、水浸しになり使用できなくなった家具の運び出しなどを行った。

10月12から13日にかけて日本を縦断し、広範囲に甚大な被害をもたらした台風19号により、鋸南町でも15号の後に張られたブルーシートが飛ばされたり被害が拡大した地域があった。台風19号の後、鋸南町や館山市ではボランティアが減少すると見られている。

VOWSは今後も被災地の状況の推移を注視しながら、ボランティアの派遣を継続する予定。

被災でがれきが残る家屋（鋸南町）

《今号の紙面から》
〈1面〉 新宗連令和2年度事業大綱案を承認した理事会と全国総支部会議、学習会で構成する全国総会の全容。
〈4面〉 新宗連青年会が9月中旬に派遣した「台湾調査団」の詳報。

台湾に調査団を派遣
アジアでの新たなプログラム策定へ向け

新宗連青年会

新宗連青年会は9月10から13日まで、中華民国（台湾）に「台湾調査団」を派遣した。参加者は宮口弘道団長（善隣教）をはじめ円応教、立正佼成会から5人。

今回の調査団は今年8月13日の新宗連青年会委員会の議決に基づき、「日本の植民地支配時代に犠牲となった人々に対する敵味方を超えた慰霊供養」と「アジアの人々との新たな関係作り」を踏まえ、毎年8月14日、千鳥ケ淵戦没者墓苑で開催している「戦争犠牲者慰霊並びに平和祈願式典（8・14式典）」の精神（すべての戦争犠牲者の慰霊・絶対非戦）を具体化し新たなプログラム策定のため派遣した。

台湾調査団は台北市と高雄市の国立博物館や戦争の記録を展示する施設などの見学のほか、先の大戦で日本の輸送船が米軍潜水艦により多数沈められたバシー海峡戦没者の追悼施設での慰霊と見学。また、昭和初期に先住民と旧日本軍、警察との戦闘事件があった、中央山脈の霧社（むしゃ）での慰霊と見学などを行った。

（4面に詳報）

滔々抄
台風被災 心からお見舞いを
真の信仰は大いなる生きる力となる

この度の大型台風により、御家族や家を失くされたり数々の甚大な被害を被られた皆様に、心からお悔やみとお見舞いを申し上げます。

どんなにかお辛く、悲しい思いをされておられる事か、不安を抱えつつ不自由を忍んでおられる事かと心が痛みます。是が非にも乗り越えて頂きます事をお念じ申し上げ、一日も早い復旧復興を願うばかりです。

近年、次々に襲い来る自然災害、如何なる対策も自然の猛威、破壊力には到底敵わず、大自然の脅威に屈する他なし。しかしながら、その中でまた自然の恩恵に生かされし事も否めぬ事実であれば、恐れと畏敬の念、感謝を以て自然との共生を果たさねばならず、過酷な中に何がしか御示唆を頂いているかの如くに思われてなりません。

私達は勝手な都合で、万止むを得ずにせよ自然破壊を続けております。それ故の影響も当然という反省に加えて、人は如何なる苦難も必ずや乗り越えられる精神力や、知恵や底力も持ち併せております。

時には気付きや目覚めの為の試練とも受け止め、全てが自然との共生に調和融合し、活かし合う事の教訓とも捉えて、助け合い支え合うのが、本来の人の在るべき姿なのだと、この様な時こそ心に深く刻みたいと思います。

大自然は元より、神仏の御心に叶う、社会貢献、言動、行動、様々な問題への処し方、さらに煎じ詰めれば、精神の養い方、育て方、日本人としての伝統である大和魂や武士道精神を基盤として、失われつつある道徳的精神をも含めて心の回復を図るべく、心づくり、人格形成の真（まこと）の信仰の道をさらにも推進し、今後増々に起こり得る、予期せぬ自然災害や社会的人災に備え、如何に乗り越え、真っ当に生き抜くか。

生きて成仏の道を歩みゆくべく、誰しもが、愛国心を以て、万世一系の我が日（ひ）の本（もと）をさらなる世界一の精神国家、日の出る国としての誇りを以て、輝かしい繁栄の道の存続を計りゆくべく令和元年、新天皇の御世に、只管（ひたすら）お念じ申し上げ、国民挙げて努力、精神、邁進をお誓い申し上げねばと存じます。

（保積敬子・大和教教祖）

VOWS（バウズ） 正式名称はVolunteers of WCRP & SYL。2016（平成28）年に発生した熊本地震の折に、WCRP日本委と新宗連青年会（Shinshuren Youth League）が協働してボランティアにあたることを決め、結成された。熊本では被災した家屋の片付けなどのボランティア活動のほか、ボランティアセンターの運営にも協力し、被災者のニーズ調査などを実施した。さらに2018（平成30）年に発生した西日本豪雨に際しても被災地にボランティアを派遣し、広島県三原市、愛媛県西予市で活動を行った。（1面）

宗教をめぐるさまざまな問題のご相談窓口
宗教もしもし相談室
03 3466-9900
受付●月曜→金曜／正午→午後4時
公益財団法人 新日本宗教団体連合会

解脱会伝記編纂委員会編
新版 解脱金剛伝 全3巻
A5判 上製函装 定価3000円（税込み）
世相善導、人心救済への道筋を説かれた解脱会会祖・解脱金剛（岡野聖憲）の生涯を全1549頁、3巻に収めた。会祖亡き後、その人格に触れて自らの内に深い帰依心を培い、世のために生きるための学びの土台となる書。第1巻＝生誕から事業の失敗、大成を経て宗教の世界に目覚めていく前半生を描く。第2巻＝昭和4年に立教して以来、人心救済の道一筋に生き、教えの土台を完成するまでの事績を辿る。第3巻＝戦時下の厳しい時代の中で縦横無尽に教えを説き、救済活動を展開し、遷化されるまでの歩みを記す。
解脱会
〒160-0007 東京都新宿区荒木町4番地
TEL 03-3353-2191（代表）Fax 03-3353-3055

清文社
宗教法人の税務調査対応ハンドブック〔宗教法人税制と法制の解説を含めて〕
石村耕治 編
A5判3780円
平成25年からの新・税務調査手続にも対応！
宗教法人と税務調査についての基礎知識を中心に整理し、コンパクトに解説した、実務家・宗教関係者必携の一冊。
公益財団法人 日本宗教連盟推薦！
〒101-0047 千代田区内神田1-6-6
☎03（6273）7946 FAX03（3518）0299
http://www.skattsei.co.jp〈価格税込〉

芸術生活社【芸生文庫】
高齢期を快く生きるための“人生の道しるべ”
老春誦歌（ろうしゅんおうか） 長生きの秘訣
御木徳近著 パーフェクト リバティー教団第二代教祖が、宗教家として悟りと長い人生経験、多くの人との出会いから、高齢期を心豊かに暮らすための新しい生き方を提唱する。■定価700円（税込）
〒150-0047東京都渋谷区神山町16-1
電話03-3469-1153 FAX03-3465-6867

南雲堂
美容と健康寿命の秘策！
認知症予防★お口の体操
『みんな笑顔、みんな元気！』DVD
監修・作詞：太田哲二 作曲：森重恭典／歌・実演：恵中瞳
（体操解説・歌詞収録のブックレット付）
定価（本体2000円＋税）
●収録内容（歌と体操の実演）
▣アッカンベー体操／舌の動きや首を回して、筋肉を活性化させて、リンパの流れを良くする。▣パタカラ体操／魔法の言葉『パ・タ・カ・ラ』を使って口を大きく動かして脳に刺激を与え、認知症予防！ ▣ラップ・ラップ体操／早口言葉や落語の寿限無をラップのメロディにのせて歌うことで手・眼・口・全身の運動機能を向上させる。
〒162-0801 東京都新宿区山吹町361
☎03-3268-2311 FAX 03-3260-5425
http://www.nanun-do.co.jp/

佼成出版社
「宗教者の役割」「信仰の本質」を問う異色の評伝
〈大逆事件〉と禅僧内山愚童の抵抗
眞田芳憲
四六判／240頁 本体2000円＋税
日本近代史における最大の思想弾圧「大逆事件」に連座し、刑死した禅僧・内山愚童（1874～1911年）。社会主義者、無政府主義者としてこれまで語られがちであった愚童の思想と行動を、本書は仏教者としての側面から仔細に検証。その知られざる実像を明らかにする。
〒166-8535 東京都杉並区和田2-7-1
☎03(5385)2323 FAX03(5385)2334
http://www.kosei-shuppan.co.jp/

白馬社
合掌ができない子どもたち
浄土真宗本願寺派福賢寺住職 三上章道
四六判 定価1260円
『本願寺新報』の編集長を二十年に亘って務めてきた著者が、合掌ができない子どもたちとの出会いを契機に、戦後の日本社会が戦慄すべき「薄縁社会」となったプロセスを追い、その原因が宗教心の喪失にあることを解き明かす。そして新たに現出した「原発問題」にも、同根の原因があることを洞察していく。日本人の心の問題にするどく迫り、根本的解決への提言をまとめた必読書。
〒612-8469 京都市伏見区中島河原田町28-106
TEL 075(611)7855 FAX 075(603)6752
http://www.hakubasha.co.jp 価格税込

ハーベスト社
東日本大震災後の宗教とコミュニティ
星野英紀・弓山達也編 本体価格7200円＋税
東日本大震災後の福島県いわき市と相双地域のコミュニティの再建における宗教の役割（避難場所としての宗教施設、宗教教団や宗教者の動向など）を解明する
療術から宗教へ
世界救世教の教団組織論的研究
隈元正樹著 本体価格3000円＋税
西東京市向台町2-11-5
Fax042-467-8661 TEL042-467-6441

緊急出版 カトリック大阪教区神父 西山俊彦
平和憲法が平和への道、改憲は戦争への道
―わたしたちが核戦争の加害者とならないために―
世が平和ボケにあろうとも、一時すでに遅し」と後悔しないために、平和憲法の真価を見直す素養まで捨てるわけにはいかない。
●1400円＋税 四六判並製
248頁 ISBN 978-4-286-19691-6
文芸社
〒160-0022 東京都新宿区新宿1-10-1
☎03-5369-2299 FAX.03-5369-3066
https://www.bungeisha.co.jp
書籍のご注文はお近くの書店またはブックサービス☎0120-29-9625、ネット書店まで

秋の大祭 各地で開催

新宗連青年会

約50年ぶりのスポーツ大会
青近連大交流大会を開催
4教団の青年ら、白熱試合繰り広げる

新日本宗教青年会近畿連盟（青近連）のスポーツ交流会実行委員会（池田大輔実行委員長）は10月13日、京都市東山区の立正佼成会京都教会の体育室で「青近連大交流会（スポーツ大会）」を行った。球技を通した青年交流は、1955（昭和30）年から68（同43）年まで催された親善球技大会から約50年ぶりの開催。

当日は4教団から約60人が参加。正午から開会式を行い、関岡伸輔青近連委員は開会あいさつで、他宗教との出会い・交流を通して、それぞれのみ教えの再発見や、新たな取り組みの一助となるようにとの交流会の趣旨を説明。パーフェクト リバティー教団（PL）の池田大輔実行委員長が「選手宣誓」を行った。

この後、試合開始。A～Gチームに分かれ、ソフトバレーボールとリアル野球盤（2球場）で総当たり戦を行った。今回の2競技は運動の得意・不得意、老若男女を問わずできるもので、特に「リアル野球盤」は、卓上の野球盤ゲームのルールに改良を加え、会場を東京ドームと甲子園球場の2球場に見立て、味方からビーチボールのトスを受け、プラスチックバットで打ち、その落下点で走塁を決めるもの。PL学園出身の選手らをかたどった走者のボードで臨場感が増した。各コートからは、得点が入るたびに歓声が上がり、教団を超えて白熱した試合が繰り広げられた。

午後4時から閉会式を行い、結果発表。会場を提供した立正佼成会京都教会の佐藤益弘教会長（京都府協議会議長）は「この大会を通して青少年の育成が進められたと思います」と述べた。くじ引きによる景品の授与、記念撮影を行い、参加者らは笑顔で握手を交わし合った。

リアル野球盤―得点が入るたびに歓声があがった

新宗連総支部協議会

教化活動懇談会―
青森と富山で開催

全国の総支部・協議会で開催が続いている教化活動懇談会。同懇談会の趣旨は、加盟教団の信者・会員が信仰体験を語り合い、意見を交換するなかから、相互に教化活動に資するものを学び合うこと。新宗連スローガンの一つ「信仰心を広めよう」を具体化するもの。

◆青森県協

青森県協議会（山谷吉信議長）は9月22日、むつ市内のイベント施設「むつ来さまい館」で開催した（写真下）。3氏が発表。松緑神道大和山の女性信徒は嫁ぎ先の姑に導かれ、現在の幸せをいただいており、「姑は私に大和山という宝物を残してくれた」と語った。また、思親会の弘前教区長は七面山修行など自身の信仰について説明。立正佼成会の女性会員は20年余り引きこもりが続いていたが、信仰のお陰で救われに至った体験を語った。

各発表では松緑神道大和山の木造教区長、立正佼成会の八戸教会支部長、発表者の母親が補足説明を加え、質疑応答も行った。

総評を新宗連奥羽総支部の結城利之事務局長が行い、各発表者をねぎらい、お互いの宗教を理解することの大切さと宗教協力の必要性を語った。参加者からも「他教団の信仰を学び、新鮮な感動をいただいた」「素晴らしい内容の学習会であった」などの感想が多く寄せられた。

◆富山県協

富山県協議会（高石悟議長）は10月3日、立正佼成会富山教会で教化活動懇談会を開催した。立正佼成会富山教会の加藤幸作教会長と高石悟議長、新宗連の佐原透修事務局長があいさつを行った後、PL高岡教会の松尾親典教会長が自教団について紹介、立正佼成会高岡教会の会員らは寸劇で自教団の紹介を行った。

この後、信仰体験発表をPLと立正佼成会の2教団4人が「導いた側」「導かれた側」の立場でそれぞれ語った。そこでは実際の悩みを教団の教えを実践する中で解決し、熱心な信者へ変わっていく過程が赤裸々に語られた。また今後、自教団へ導く時の注意点や大事な点も学びとなった。

続いて行われたグループミーティングでは、自身の信仰体験を語り合うなど、活発な話し合いが展開された（写真上）。

終了後のアンケートでは「お誘いする時に相手を尊重する。また積極的に自分から話しかけていこうと思う」や、「教団や呼び方は違っていても人さまの幸せを願う心は同じであり、教化活動懇談会で宗教協力の大切さを学んだ」などの感想が寄せられた。

「現代社会における宗教の課題」学習会
総支部・協議で開催続く

現在、新宗連の各総支部・協議会では「現代社会における宗教の課題」をテーマに、内部向けの学習会を開催している。人口減少・少子高齢化、家族の変容、情報化社会、「宗教離れ」といった現状に対して、宗教団体がどのように対応するか、布教・継承していくべきかを、教団を超えて共に考えるというもの。

講師は新宗連本部事務局の武藤亮飛事務局員と隈元正樹事務局員が務め、それぞれが専門の宗教学や社会学で得られた知見を紹介し、課題を整理することで、現状の理解、今後の活動のための参考に供する。

具体的な内容は公的機関や研究者による各種アンケート調査をもとに、日本社会の変化、宗教観、宗教意識と実践などのデータを紹介。特に武藤事務局員は「世俗化」（社会における宗教の役割が小さくなること）や現代人のコミュニケーションの在り方などから、「宗教離れ」と言われている現状の整理を行っている。隈元事務局員は、人口・産業構造や家族の変化を示し、教団運営における課題を提起する。

今年度はこれまで武藤事務局員が北関東総支部（4月18日）、群馬県協議会（7月8日）、山形県協議会（9月15日）、隈元事務局員が東京都協議会（5月13日）、中部総支部（9月17日）、静岡県協議会（同24日）でそれぞれ講師を務めた。また今後は、武藤事務局員が十勝地区協議会（10月27日）、愛知県協議会（2月14日）、隈元事務局員が東北総支部（11月5日）、新宗連青年会（同10日）で講演を予定している。

常に謙虚に 思いを秘め実践を
2日間にわたり秋季大祭 円応教

円応教（深田充啓教主）は10月5、6の両日、兵庫県丹波市の本殿で「秋季大祭」を執行した。

両日とも午後零時半から開式。5日は深田充啓教主が入場した後、9人の女性信者が献花・献饌・献茶の「献上の儀」で真殿を荘厳し、深田教主の主導師により「おつとめ」を行った。物故者のお悔やみで黙祷を捧げた後、卒寿・米寿・傘寿を迎えた信者に対し、長寿を祝い、記念品を贈呈した。

教団を代表して寺岡圓治郎副理事長があいさつに立ち、本部聖地へ足を運んでくれた信者への謝辞を述べた。続いて今年1月6日の「教祖祭」での深田教主の「御真教」を引き、「御教祖様に倣い、人さまのために、世の道具として働かせていただく事が今年の大きな目的です」とした上で「今ここで、今年のスローガンを心に改めて刻み、信仰の継承、教団の隆昌発展の為に、お導きに努めてまいりましょう」と呼びかけた。

続いて、深田教主が「御親教」に立ち、教典261項について解説。心に不満がある時こそ謙虚になる必要があるとして、「自分の思い通りにならない時こそ、自覚、反省、懺悔して自を説いた。

深田教主は「御親教」で謙虚になる大切さを説いた

また、自分自身に理想を持ち、それに近付けていくよう努力、精進することが大切とした上で「今与えられていることに感謝し、行じる事が重要。その上で常に謙虚に、思いを心に秘めて実践することが、自分のみならず周りが幸せになる近道です」と謙虚になることの大切さを重ねて説いた。

その後、円応ウインドオーケストラの演奏で聖歌隊と共に全員で「佳き日の歌」を斉唱、教団基本方針を奉唱した。また、本殿前では秋季大祭に先立ち、「百年太鼓」の山車が披露された。

聖観音像を拝し 新たな精進誓う
第48回世界助け之聖観音像秋季大祭 天真教

天真教（神出修二教主）は9月23日、三重県伊賀市の本部で「第48回世界助け之聖観音像秋季大祭」を執り行った。聖観音像は「神名・大納言之宮千願不動慈悲菩薩千手観音大権現像」として、1972（昭和47）年3月に故神出房江教祖が祀った。以来、春秋彼岸の中日に、聖地「松竹梅の花園のお地場」で開扉されている。

午前10時、神出修二教主が本部・平安城神殿で前祭を執り行い、三社殿に拝礼した後、出発準備の号令を出し、神輿に「天真王之命」を遷座した。この後、紅白の花傘と福寿旗、長刀持ち、槍持ち、七福神、斎主、神輿、幟を持った信徒らが平安城前を出発し、「無一空一我無也」と唱えながら、花園のお地場まで練り歩いた。

天真院大奉燈拝殿で本祭を開式。信徒会の大河内健副会長があいさつ。天真教の教えの一節を引き「教祖神さまから、世のため、人のために尽くすことを願われています。私たちはその神さまのため、日々の精進を誓いました。

令和の時代を切り開く誓いを
第175回秋季大祭 解脱会

解脱会（本部＝東京・四谷、岡野英祥法主）は10月10日、埼玉県北本市の御霊地で「第175回秋季大祭本祭式典」を執り行った。

当日は秋晴れに恵まれ、午前9時半から太神社殿前にて奉告祭、午前10時45分から五智如来堂内で万部御法楽が厳粛に執り行われ、岡野理事長は式辞で、令和の時代にさらなる努力を促した遠方からの会員らも参列した。

午前11時半からの本祭式典は、国歌斉唱と大祭の歌斉唱、拝礼行事、岡野聖憲会祖（解脱金剛尊者）の「みこえ」（録音）拝聴と進んだ。

続く萬霊魂祭塔の儀では、はじめに岡野英夫理事長が生花を塔前に捧げた後、参加者全員による真心からの般若心経が万物万霊に捧げられた。

この後、岡野理事長が特設舞台に立ち、式辞を述べた。岡野聖法師（今年4月3日逝去）の最後の「お言葉」を引用し、「解脱会員はどこまでも修行者であることを忘れずに、精進しなければいけない。皆、自分はできていると思っているようだが、十分に反省する必要がある。いつも清らかな心で過ごせるように努め、馬鹿になって修行してほしい」と述べた。

そして「令和の時代を私たちの手で切り開いていくというお誓いをし、心を合わせて再出発をさせていただきましょう」と会員のさらなる努力を促した。

続いて、西村晴雄常任理事の発声で「新帝陛下御即位」を祝う万歳三唱が行われた。第2部直会は渡辺孝彦顧問による乾杯で始まり、参加者は和やかなひと時を過ごした。

なお12、13日に予定されていた支部認証式と大祭式典は、台風19号が関東直撃の予報があり、会員の安全を考え、中止となった。支部認証式は15日、各直轄道場で執り行われた。

先祖霊を浄化する御幣帛を伝授
秋季浄霊祭 擬宮界教団

擬宮界教団（林玄光法主）は9月23日午前9時半から、大阪府交野市の本部紫雲山光明閣で「令和元年秋季浄霊祭」を執り行った。

同祭は毎年春分と秋分に行われ、先祖の「法名」を記した金銀の御幣（御幣帛）を神前の立塔に取り付け、それを依代として誠を捧げ、先祖霊を浄化するもの。

斎主の林玄光法主と6人の斎員が入場。斎員が「御降真諄詞」「清魂諄詞」を奏上し、「祓戸の御式」で供物や参列者に対し修祓を行った。各種諄詞の奏上が続き、林法主が「幽冥界之大神諄詞」を奏上した後、「秋季浄霊祭御請願諄詞」を斎員が奏上した。

この後、林法主が先祖の「法名」を記した金銀の御幣（御幣帛）が設置された左右3対の立塔に向かい、中央に捧げられた黄金の大幣で「浄霊の儀」を行い、先祖霊の浄化を行った。続いて、林法主が「浄霊の辞」を奏上する中、真者は先祖霊の冥福を真剣に祈った。

金銀の御幣帛に向かい、林法主が浄霊の儀

林法主が参列者の方に向かい、「勤行要文」を奉読した。

午後零時半から、「御幣帛」の伝授に移り、「別格浄霊」された位牌、「特別浄霊」された金の御幣帛、「普通浄霊」された銀の御幣帛、春季浄霊祭から半年間、祈念された経木が林法主から真者に手渡された。

御幣帛を授与された真者は家に持ち帰り、次の浄霊祭までの半年間、家の祭壇に御幣帛等を安置し、この世に未練のある先祖霊が解脱した魂である「成正覚」になるまで、日々祈り浄霊する。

教えを受け継ぎ 日々祈りを
第34回例大祭 大和之宮

大和之宮（安食克己代表役員代務者）は10月5日深夜から翌日午前にかけて、山形市の本部で「第34回例大祭」を執り行った。

5日午後11時過ぎから、拝殿で斎主の安食克彦祭司長が修祓を行い、午前零時から信徒会館で待機していた参列者が拝殿に入室し、「御扉開扉之儀」を斎行した。参列者が神前に整列した後、斎主による祝詞奏上、続いて一同で御真言「天照らす光に向かう真の道」を36回奏上した。玉串奉奠を大祭実行委員長と役員、総代代表らが行い、「一拝之儀」で祭儀を終了した。

安食祭司長があいさつを述べ、元号が「令和」と代わり初の例大祭を迎えたことを寿ぎ、新しい時代にあらためて人を救うこと、いのちの大切さを説き、「私たちは大和之宮の教えを受け継ぎ、日々の祈りを続けてまいりたい」と述べた。

斎主の安食祭司長による神剣加持

この後、参列者は拝殿を退出、午前1時過ぎから斎主が「特別祈願」を執り行い、信徒から寄せられた特別祈願を読み上げ、「御真言」を360回奏上し、心を込めて祈祷札に入魂を行った。

6日は午前6時から「朝参り」、9時半からは「一般参拝」が執り行われた。

「一般参拝」では、斎主の安食祭司長が修祓、祝詞を奏上した後、参列者一人ひとりが神前で願を心の中で読み上げ、玉串奉典。続いて玉串に結び付けた願意の札を外し、三方に置き、斎主の前に進み正座し低頭、神剣加持を受けた。この後、斎員から祈祷札と財布供養、御神酒が授けられた。

「一般参拝」はこの後、午前10時半、11時半と3回執り行われた。

参拝を終えた参列者らは、信徒会館で恒例の芋煮とカレーうどんを堪能しながら、懇談が続いた。6日は午前9時過ぎから、市民マラソン大会のランナーらが大和之宮前の国道を走り抜け、参列者が楽し気に観覧するという一幕もあった。

73年目の立教記念日を祝う

聖地はじめ国内外でPL祭を執行　PL

パーフェクト リバティー教団（PL、御木貴日止教主）は9月29日、大阪府富田林市の聖地をはじめ国内外の教会、支所などで73年目の立教記念日を祝う「PL祭」を執り行った。

聖地では午前10時から、錬成会館大ホールで聖地在住在勤者とPL学園生をはじめ、参列を希望した会員らが参列し、式典を執り行った。

典礼係が式典の挙行を告げ、中田信和祭司長、板垣信生副祭司長ら24人の祭司が入場。聖号奉唱、PL遂断詞の後、中田祭司長が神前に進み、祭文を奏上。立教以来「人生は芸術である」と掲げ、国内外にPLの教えを広め、大平和具現に貢献してきたことを奉告した。そして、「今から後もますますおしえおやを仰ぎ、互いに結び、終始一貫信仰して、世のため人のため世界平和のために一層の献身に励む」ことを誓い、教団のさらなる進歩発展を祈願した。

御木貴日止教主が美智代夫人（祐祖、教務総長）と共に入場し、神前に聖花を献上し、遂断った後、一礼し、参列者席に向かって両手を大きく左右に広げ「祝福の神事」を行い、参列者は「無我の式」の姿勢で神事を拝した。この後、参列者代表4人が神前に聖花を献上し遂断り、参列者一同で聖号奉唱し、式典を終了した。

この後、「教話」に移り、加美弥真教会の道下三夫氏が登壇。「祝福の神事」を賜った喜び、感謝を述べた上で、御木教主が望む平和人育成に触れ、「PLの信仰をさせていただくことは、平和人にならせていただくこと」と話し、「PL祭を機にさらにおしえおやをいただき、平和社会づくりに貢献させていただきたいと思います。素晴らしい人生を歩ませていただきましょう」と呼びかけた。

式典終了後、正殿前広場で「PL祭聖地運動会」を開催した。晴天の下、PL学園の幼稚園の園児、小学校の児童、中学校、高等学校、衛生看護専門学校の生徒と聖地在住者に加え、各地の教会から多くの会員が参加し、会場は大きな盛り上がりを見せた。

聖地・錬成会館大ホールでのPL祭―24人の祭司が入場し、聖号奉唱

開基110周年を祝う

深川市内で祝賀会を開催　加納太霊教院

加納太霊教院（本部＝北海道深川市、加納理孝院長）は9月29日正午から、深川市内のホテルで「開基110周年祝賀会」を開催した。祝賀会は今年6月16日、教団本院で斎行された「開基110周年教祖祭典」で開催が発表されたもの。

加納太霊教院は、「太霊神」と「地霊神」を感得した加納包球教祖が1910（明治43）年に立教した。加納教祖は、人や家畜の病気、農作物の実り、天候、災害などすべてを霊の働きとみなして治療を行った。14（大正3）年に霊魂療院を開設。26（昭和元）年に加納太霊教院と改称した。

新宗連には1990（平成2）年に加盟。4代目院長の加納包靖氏は新宗連理事を務めた。現院長の加納理孝氏は5代目で、新宗連評議員並びに北海道総支部総務、旭川地区協議会議長を務めている。

祝賀会では来賓祝辞、祝電披露に続いて感謝状の贈呈が行われた。祝杯の発声は、芳賀敦浩音江郵便局長。祝宴では、音江イルム太鼓衆による和太鼓演奏が披露された。

出席の代表者の発声で万歳三唱、開基110周年を祝い合った。

最後に加納院長が登壇し謝辞を述べた。少年時代のエピソードを披露し、「生まれてきたのには意味がある。お互いに持って生まれてきた役割を全うしてまいりましょう」と呼びかけ祝賀会は終了した。

謝辞を述べる加納院長

70周年に向け精進努力

開教69周年記念「世界の子どものために祈る日」　妙智會教団

妙智會教団（宮本惠司法嗣）は10月12日午前9時から、東京・代々木の本部本殿大講堂で開教69周年記念「世界の子どものために祈る日」を厳修した。台風が接近する悪天候にもかかわらず参集した会員は、開教70周年に向けてのスローガンへの思いも新たに、一層の飛躍を誓い合った。

開式後、宮本惠司法嗣が入殿し「ご祈願」。その中で開教69周年と「ありがとうインターナショナル」設立29周年を祝い、先達一人ひとりが今日まで「み教え」を信じ、忍善と感謝と懺悔の心で修行を受け、「お導き修行」を第一に邁進し、「み教え」を守り続けてきたことに感謝を示した。その「2大スローガン」と綱領を唱和し、精進努力を誓い合った。

続いて、宮本法嗣が「ご指導」。台風による悪天候により式次第を変更することになったことに触れ、「このような天候を頂いたのも霊界からのご順序で本殿大講堂で式典を厳修して「この素晴らしいみ教えを人々におし伝えするお導き修行の実践と正しい先祖供養の実践をここに固くお誓い申し上げます」と奏上した。

読経を行った後、参列者全員で開教70周年に向けて「世界の子どものために祈る日」と綱領を唱和し、精進努力を誓い合った。

迫力ある万灯・纏、個性あふれる演出で一乗行進

お会式・一乗まつり　立正佼成会

立正佼成会（庭野日鑛会長）は10月6日、東京都杉並区の本部と周辺で「お会式・一乗まつり」を開催した。「お会式」は日蓮聖人の命日である10月13日の前後に、その遺徳を称え偲んだのが起源で、日蓮宗など各地の寺院で万灯（まんとう）行進が行われている。立正佼成会は1951（昭和26）年から独自の様式による「お会式」を催し、その後、1999（平成11）年10月に逝去した同会の庭野日敬開祖の「一乗精神」も込め、今日の形式となった。

当日は午前9時から本部大聖堂で祈願供養、11時からは大聖堂前で「一乗物産展」を開催。国内外の教会、NPO・NGOなどが出店し、特産品の販売とともに、活動のPRを行った。

午後零時20分、「発祥の地修養道場」前で発進宣言が行われ、先頭の本部班から「一乗行進」がスタート。一乗行進は本部班に続いて、在京を中心に各支教区の行進が夕方まで続いた。

今年は、霧雨の中スタートしたが途中からは天候も回復し、威勢のよい掛け声と迫力のある万灯、纏（まとい）のほか、各支教区の個性あふれる演出が見られ、沿道の観客を楽しませていた。今年は東京3支教区の22教会が発足60周年を迎えるなど、周年を祝いアピールする隊列が多く見られた。

前日5日には普門館東駐車場で、地域住民への感謝を表す取り組みとして、地元自治会が主催する「前日祭」が催された。バトンやハワイアンショー、和太鼓演奏などが披露され、盆踊りでは会場が一体となり、大きく盛り上がった。

周年を祝いアピールする隊列も見られた

平和一神和石建立　60年祭を挙行

万霊万物尊愛の祈り捧げる　修養団捧誠会

修養団捧誠会（本部＝東京・池袋、出居徳久総裁）は9月22日午前11時から、広島県尾道市因島で「平和一神和石（いっかんわせき）建立60年祭」を開催した。式典は教団の中国ブロック（西本重男ブロック長）の主催によるもの。

出居清太郎教祖が1957（昭和32）年10月、因島支部5周年記念式典中に霊感を受け、「平和一神」と揮毫し、「（因島の）白滝山上に碑として建てるように」と述べた。

出居教祖は式典後、「『一神』は『いっかん』と読む。はじめは『一貫』と思っていたが、筆を執った刹那『一神』と書けと、大極のひびきをいただいた」と語っている。

因島支部は59（同34）年、「平和一神和石」の建碑を決め、白滝山観音堂の本山・善興寺及び地元関係者を説得、了解を得て碑を設置し、同年10月18日、除幕式を執り行った。

和石は高さ2㍍、重さ300㌔。裏面には出居教祖の平和を誓う「感詩」が刻まれている。和石は、原爆死没者の慰霊と世界恒久平和を祈念する広島市の平和記念公園に向き合う位置に配置され、和石建立10周年に出居教祖は「（平和記念公園内にある）平和記念（資料）館も、この『平和一神』と相通じているのだ。これは尊い教科書として、文明文化の基礎として、建立された」と訓話を残している。

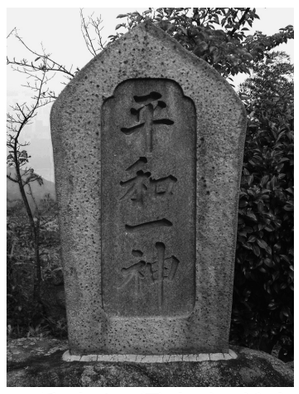
「平和一神和石建立60年祭」は、白滝山山頂の「平和一神和石」の参拝を済ませた会員が参列するなか、出居徳久総裁が出席し、午前11時から因島土生町の会場で行われた。

出居教祖の遺した「聖感」「白滝登山のかけ声についてのみおしえ」拝読、出居総裁による「いのりのことば」奏上、「神法」奉読、「教祖讃歌」斉唱などが行われた。この後、ビデオ「平和一神和石60年によせて」の上映、西本重男ブロック長のあいさつ、持田忠昭副会長の祝辞、祝電披露と続いた。

出居総裁があいさつに立ち、広島平和記念公園と「平和一神和石」を参拝したことを報告。広島市の原爆ドームには人種・国籍・宗教を超えた多くの人々による、犠牲者だけではなく、すべての霊、万霊に対する祈りと、悠久世界平和の祈りが込められているのではないかと述べ、「平和一神和石も、まさに私たちが万霊万物尊愛の祈りを捧げる崇高な碑（いしぶみ）であるといえます」と説いた。

そして国内外にある教祖ゆかりの神石5基、和石15基について触れ、「神石・和石の建立の意義を、私たちは心新たに、もう一度心に刻み、これからも共に交流させていただきたい」と述べた。

この後、野村茂久高知支部長が「平和一神和石」への思いを話し、一同で「平和郷誠歌」を拝唱し、乾杯し祭典を終了した。



白滝山山頂に建立された平和一神和石

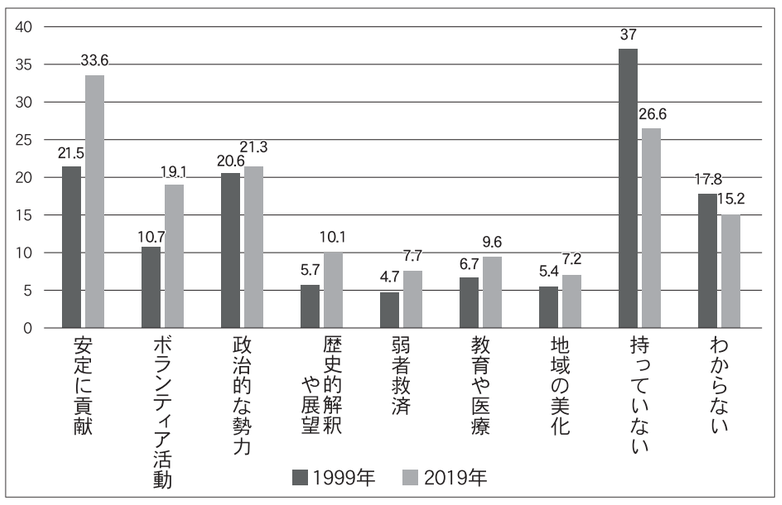
祭典であいさつを述べる出居総裁

日本人の宗教意識　20年間で変化したか

庭野平和財団「日本人の宗教団体への関与・認知・評価の20年」調査

〈設問〉神社やお寺、新しい宗教団体は社会的にどのような役割を持っていると思いますか。この中からいくつでもあげてください。

1 地域社会の交流や安定に貢献している
2 災害時の救援やボランティア活動など社会的に貢献している
3 選挙の際に活動し、政治的な勢力となっている
4 日本の戦後に関する歴史解釈や将来の展望などの点で影響力を持っている
5 ホームレスや難民など、弱者救済に活躍している
6 学校や病院など、教育や医療の分野で貢献している
7 道路や公園の清掃など地域の美化に貢献している
8 とくべつ影響力を持っていない
9 わからない



庭野平和財団（庭野浩士理事長）はこのほど、「日本人の宗教団体への関与・認知・評価の20年」調査の結果を公表した。

この調査は「日本人の宗教団体に対する関与・認知・評価に関する世論調査」として、1999（平成11）年から始められたもので、2004（同16）年、09（同21）年と実施され、今年第4回目を國學院大學教授の石井研士氏の協力のもと実施。20年間にわたる日本人の宗教意識の持続や変化の把握を目指した。

この調査結果から、いくつかのポイントが指摘されている。例えば「神道」や「仏教」の信頼度は20年間で継続的に高くなったことが指摘されている。他方、「新しい宗教団体」も全体的にマイナスイメージ（怖い、ぶきみ、金もうけ主義、強引な勧誘など）が薄れてきていることも指摘されている。しかし、「新しい宗教」に関して「特別にイメージがない」とする人も増加しているため、単純に関心の度合いが薄れてきていると読むこともできる。

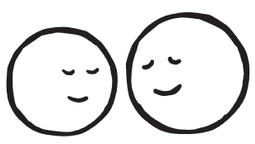
これに関連して、「知っている宗教団体は？」という設問では、新宗連加盟の宗教団体のいくつかの名前が挙がっているが、20年前と比べると「新しい宗教団体」のいくつかの認知度が全体的に低下している。

宗教が「社会的にどのような役割を持っていると思いますか」という設問については、20年前は役割を「持っていない」とする消極的な意見が37％と高いものだったが、26・6％に減少。その他の選択肢が増加し、特に地域の交流や安定に貢献しているでは12・1ポイントの増加、ボランティア活動での貢献では8・4ポイント増加と顕著である（上図）。これについては「東日本大震災をはじめとした自然災害での宗教団体の活動が周知されたことと関係がある」との可能性が指摘されている。

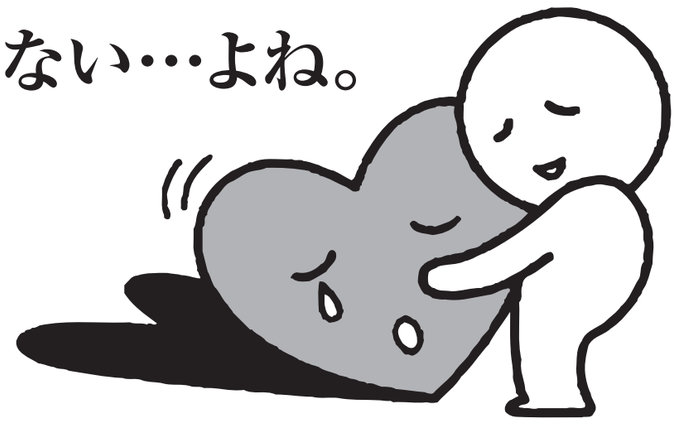
総括としては、日本人の「宗教行動、具体的な宗教団体との関りについて、この20年間ドラスティックな（激烈な）変化は生じていない」と述べられている。

他方で、祭りのときに神社に訪問する人、盆や彼岸に寺院に訪問する人が減っているなど、宗教的行為や宗教団体との関わりが薄れつつあることも指摘され、評価やイメージは高まっている傾向性が見られるが、「宗教離れ」は進行していると指摘している。

ひとりで悩まず電話して！
ホントにつらい時って誰にもいえない…よね。


●東京自殺防止センターは国際ビフレンダーズの一員です。
●私たちは国際ビフレンダーズ憲章に沿って活動しています。

●必要に応じて面接をしています。
●手紙でのご相談にも応じています。
●秘密は守られます。
●相談は無料です（通話料はかかります）。
●金銭的な援助はできません。
●医療・法律・教育関係の助言や指導は、専門家にお願いします。
●特定の思想・宗教・政党などとは一切関係ありません。



NPO法人　国際ビフレンダーズ
東京自殺防止センター
03-5286-9090
年中無休、夜8時から翌朝5時30分まで
火曜は夕方5時から翌日2時30分まで
木曜は夜8時から翌日2時30分まで
〒169-0072　東京都新宿区大久保3-10-1 日本基督教団シロアム教会内
事務局電話番号　03-3207-5040（FAX 03-3207-5098）
●全国にある他の自殺防止センター
国際ビフレンダーズ 大阪自殺防止センター
06-6260-4343　毎週金曜、午後1時から日曜、午後10時まで
国際ビフレンダーズ 宮崎自殺防止センター
0985-77-9090　毎週日曜・月曜・水曜・金曜、午後8時から午後11時まで
国際ビフレンダーズ 岩手自殺防止センター
019-621-9090　毎週土曜、午後8時から午前0時まで
国際ビフレンダーズ あいち自殺防止センター
052-870-9090　毎週金曜、午後8時から11時まで

日本統治期の複雑な歴史学ぶ

台湾調査団を派遣　新宗連青年会

新日本宗教青年会連盟（新宗連青年会、宮口弘道委員長）が9月10から13日まで中華民国（台湾）に派遣した「台湾調査団」には、宮口弘道団長（善隣教）をはじめ円応教、立正佼成会から5人の青年らが参加した。

台湾は1895（明治28）～1945（昭和20）年の50年間にわたる日本の統治によって近代化しインフラが整備され、教育・生活水準が向上した面がよく知られている。一方で、旧日本軍が各地の抗日運動を鎮圧しながら支配体制を固めていたことや、先住民族の文化や伝統を無視し、先住民に対する差別的な待遇や強制労働があった。30（昭和5）年10月には中央山脈の中部にあたる霧社で、現地先住民が霧社公学校（小学校）で開かれていた運動会を襲撃し、日本人130人以上を殺害した「霧社事件」が起こった。

また、36（同11）年以降は戦時体制に対応するために、台湾人の「皇民化」、台湾産業の「工業化」、台湾を東南アジア進出の基地とする「南進基地化」が進められた。

南部で慰霊と学習

今回の台湾調査団は9月10日、現地時間午後4時半頃に台北市内に集合。国立台湾博物館を見学した後、二二八和平公園を視察した。

11日午前に、台湾の南端、屏東縣の潮音寺を訪問。潮音寺は1944（昭和19）年、台湾とフィリピンの間にあるバシー海峡で12日間も漂流し、奇跡の生還を遂げた中嶋秀次氏がその半生と私財をなげうって、戦友たちのために81（同56）年に建立した、バシー海峡戦没者のための唯一の追悼施設。

先の大戦時には石油輸送船団やフィリピンへの増援輸送船団など、日本の重要輸送船団が多く航行していたため、戦争後半にはアメリカ海軍の潜水艦が多数配置され通商破壊に従事し、多くの日本輸送船を沈めたことからバシー海峡は「輸送船の墓場」と呼ばれた。

潮音寺では宮口団長が代表献花を行った後、献香を行い、それぞれ冥福を祈った後、内部を見学した。

屏東縣の潮音寺でバシー海峡の犠牲者に対して祈りを捧げた（11日）

この後、最南端となる鵝鑾鼻まで足を延ばし、バシー海峡を一望した。

同日夕刻、一行は高雄市内に向かい、「高雄市戦争と和平紀念公園主題館」を見学。同館は人々に台湾の戦争の歴史を伝え、歴史的悲劇を繰り返さないように警鐘を発し、異郷での戦争犠牲者の霊を慰めることを目的としており、日本軍や中華民国の国民党政府軍（国府軍）、中華人民共和国の人民解放軍として戦った台湾人兵士についての説明文があり、台湾の複雑な戦争体験について学んだ。

中部・霧社を訪問

12日午前は、高速鉄道と専用車で移動し、霧社を訪問した。

霧社は、中央山脈の中部にあたる地域で、1930（昭和5）年10月27日の朝、山地先住民族（セデック族）が霧社公学校（小学校）で開かれていた運動会を襲撃し、日本人130人以上を殺害した事件が起こった場所。その後、先住民側も旧日本軍や警察による鎮圧、敵対部族による襲撃で、自殺者も含めて約1千人が死亡した。

事件の発端は、部族の頭目モーナ・ルーダオの長男と日本人巡査のトラブルとされるが、日本による森林開発のための過酷な労役や先住民の狩猟の場がなくなったこと、先住民族の文化や伝統を無視し、先住民族に対し差別的な待遇や強制労働を行ったことなどが原因に挙げられている。

午前11時に、モーナ・ルーダオの墓地と霧社山朋抗日起義紀念碑に到着し、碑の前で献香、献花、黙祷を捧げた。霧社公学校の跡地に建設された水力発電所に移動し周辺を見学、当時を偲んだ。

続いて、人止関に移動し、見学した。人止関は、当時日本軍が先住民族居住地域に攻め込もうとした時に、襲撃を受け突破できずに一度は撤退した場所。今では霧社へ向かう唯一の道路として多くの車が行き来していた。

北部の捕虜収容所跡へ

同日午後、一行は台湾北部・新北市瑞芳区金瓜石にある「国際終戦和平紀念園区（平和記念パーク）」を訪問した。

台湾では先の大戦の1942（昭和17）年から終戦（1945年）にかけて15の捕虜収容所が建設され、イギリスやカナダ、オーストラリアの兵士を中心に4300人余りが捕虜として送られた。平和記念パークの中に捕虜収容所跡があり、この捕虜収容所は当時、日本軍が最初に設けたもので、マレーシアやシンガポールで捕虜となったイギリス連邦を主とした連合軍の多くの捕虜が収容された。

捕虜の労働は鉱山での採掘作業で、戦争に必要な銃弾や砲弾の原料を提供することだったが、生活と労働環境が劣悪、管理は厳格、医薬品不足や台湾の環境に慣れないことに加え、多くの捕虜が猛暑の中で虐待され、奴隷のような労働を強いられ命を落としたという。

台北市内にある「大愛電視」で慈済の担当者から話を聞く参加者（13日）

一行は、「台湾捕虜収容所記念協会」が整理した元捕虜の名前が刻まれている「金瓜石台湾捕虜記念碑」の前で、捕虜の階級や出身国を確認して、冥福を祈った。

13日午前は、台北市内の「財団法人・台湾仏教慈済慈善事業基金会」（略称、慈済―Tau Chi、ツーチー）の仏教慈済人文志業中心（メディアセンター）にある「大愛電視」（テレビ局）を担当者の案内で見学した。慈済は1966年に創立された台湾四大仏教の一つで、世界的な仏教ボランティア団体。紹介映像で慈済の歴史や活動を学んだ。

この後、帰路につき、4日間にわたる調査を終了した。

「和」の心テーマに庭野会長（立正佼成会）講演

第16回奈良県宗教者フォーラム

第16回奈良県宗教者フォーラム（中村浩士実行委員長）が9月27日午後零時半から、奈良県橿原市の立正佼成会奈良教会で開催された。当日は29の宗教・宗派の宗教者をはじめ信徒ら約130人が参加した。

今回のフォーラムは「日本のこころと宗教の役割」をテーマに開催された。開式に先立ち、立正佼成会奈良教会の中村浩士教会長を導師に平和祈願法要が執り行われた。

開会式では中村浩士実行委員長（立正佼成会奈良教会長）のあいさつの後、荒井正吾奈良県知事、森下豊橿原市長が来賓あいさつを述べた。

庭野会長は「和」について「共に生きる道を探していく創造的なもの」と説明した

続いて立正佼成会の庭野日鑛会長（新宗連顧問）が「『和』の心を現代に」をテーマに基調講演を行った。庭野氏は「和の精神はあらゆる宗教に共通する普遍的な価値である」と、「和」の精神の重要性を述べた。その上で「和の実現は神仏のお告げです」とし、「和」の実現のため、たゆまず努力、精進することが宗教者の役割であることを示した。

また「和とは、表面的な波風の立たない調和がとれた状況を言うのではありません」とした上で「限られた集団だけに通用するものではなく、誰に対しても常に開かれ、成り立つものでなければなりません」と和の条件を述べ、「互いに改めるべきは改め、共に生きる道を探していく創造的なものです」と説明した。

また、「和」を醸成するには対話と、他者への奉仕による心の転換が重要になるとし、「家庭、地域をはじめ、国と国との間に和が築かれ、多くの人々と協力しながら、その実現に取り組んでまいりたい」と表明した。

続いて、興福寺の多川良俊執事長がコーディネーターを務めて鼎談が行われ、廣瀬神社の樋口俊夫宮司、東大寺の狭川普文別当、立正佼成会の松本貢一近畿支教区長がパネリストとして登壇。3氏は自身が携わった世界平和や社会貢献にかかわる活動などについて語った。

最後に、西村泰宏副実行委員長（春日大社・禰宜）があいさつを述べ閉会した。

新宗連から岡田理事長（日宗連理事長）、宮口青年会委員長らが参列

千鳥ヶ淵戦没者墓苑 創建60年秋季慰霊祭

千鳥ケ淵戦没者墓苑奉仕会（津島雄二会長）は10月18日午後1時から、東京・九段の国立・千鳥ケ淵戦没者墓苑で「創建60周年記念秋季慰霊祭」を開催した。新宗連の岡田光央理事長が日本宗教連盟（日宗連）理事長として、宗教界を代表し参列、また新宗連青年会の宮口弘道委員長や新宗連加盟教団の代表、青年らが多数参列した。

千鳥ケ淵戦没者墓苑は1959（昭和34）年、国により建設され、軍人・軍属・一般邦人を含む戦没者の遺骨を埋葬している。先の大戦に際し、海外において約240万の日本人が亡くなった。戦後、戦友により遺骨が持ち帰られ、53（同28）年からは政府による海外の遺骨収集事業が開始。

宗教界を代表して岡田理事長が献花を行った

同墓苑は日本に持ち帰られた、名前のわからない戦没者の遺骨が納められている「無名戦没者の墓」であるとともに、先の大戦で亡くなった全戦没者の象徴として慰霊追悼するための「国民的聖苑」となっている。現在でも毎年、遺骨の帰還・納骨が続けられており、37万69体（令和元年5月27日現在）の遺骨が奉安されている。

当日は、秋篠宮皇嗣同妃両殿下が御参着の後、開式。国歌斉唱、献茶の儀と続き、津島雄二会長が式辞。津島会長は墓苑の創建60年の節目にあたり、墓苑の建設とその後の発展に尽力した先人への感謝の意を表するとともに、「私たちが平和で豊かな生活を享受しているのは、戦没者の尊い犠牲の上にあることを片時も忘れてはならない」と述べた。

続いて、墓苑内に歌碑がある昭和天皇と上皇陛下の御製（歌）が奉唱され、今年は60周年記念として、御製奉唱に合わせ、舞踊と詩舞が奉納された。この後、少年少女合唱団「音羽ゆりかご会」による童謡唱歌「海ゆかば」「里の秋」「みかんの花咲く丘」が奉唱された。

内閣総理大臣の追悼の辞（代読）の後、秋篠宮皇嗣同妃両殿下が御拝礼。この後、参列者一同で黙祷を捧げた。

陸・海・空各自衛隊代表部隊の拝礼の後、遺族・戦友会、政界、駐日各国大使、宗教界の来賓らによる献花があり、岡田理事長が献花を行った。

女性の立場から仏教精神を

全日本仏教婦人連盟大会

全日本仏教婦人連盟（東伏見具子会長、本多端子理事長）は10月15日午前11時から、東京都港区のホテルで「第66回全日本仏教婦人連盟大会」を執り行った。

新任の本多理事長があいさつした

全日本仏教婦人連盟は、仏教に賛同している婦人団体で組織され、社会福祉事業に貢献することを目的に1954（昭和29）年10月6日に設立された団体。「女性の立場」から社会および家庭生活の中に「仏教精神」を培い、慈悲の心、人の気持ちのわかる人間を育成するとともに、さまざまな社会福祉事業に取り組んでいる。

第1部では笹川悦導全日本仏教尼僧法団理事長を大導師に法要を厳修し、読経の中、来賓・会員が献花を行った。その後、「信条」を全員で唱和し、東伏見具子会長があいさつを述べた。続いて来賓あいさつ、目録の贈呈があり終了した。

第2部では今年度新たに就任した本多端子理事長があいさつをし、同じく新任した梨本三千代副理事長が紹介された。続いて末廣久美前理事長と篠田節子前副理事長に感謝状が贈呈された。この後、乾杯、来賓紹介が行われ、清興ではマリンバ奏者・通崎睦美さんによる演奏が披露され、最後に「仏婦の歌」を参加者全員で唱和し終了した。

被災地の復興 共に祈る

山形県宗懇第9回平和の祈り

山形県宗教者懇話会（大寿昭芳会長）は10月10日午後2時から、山形市の立正佼成会山形教会で「第9回平和の祈り『宇宙共生　世界平和』―東日本大震災並びに各地災害犠牲者慰霊・復興祈願―」を執り行った。

同集会は東日本大震災以来、毎年宗教を超えて行われてきた祈りの集いで、「被災された方々へ思いをはせ、犠牲になられた方々の冥福と慰霊の誠を捧げ、被災地域のことを忘れない」ことが大切」との考えのもと、9回にわたって継続されてきた。

神道による宗派別「お祈り」

当日は神道と仏教、キリスト教、新宗教の県内10団体が参加。全員で黙祷を捧げた後、大寿昭芳会長（曹洞宗無量寺住職）があいさつし、「皆が一緒の場所に集まり、平和を祈れる縁をいただけて幸せ」と述べた。

続いて立正佼成会東日本教区長の近藤正則氏が講話を行った。

「お祈り」に移り、立正佼成会からキリスト教、仏教、神道の順で宗派・教団ごとに災害犠牲者の慰霊と被災地の復興を祈り、最後に鐘が打ち鳴らされ、参列者全員で慰霊、復興を祈願した。

旧統一教会集会について国会議員に要望書を発表

全国霊感商法対策弁連　全国集会

全国霊感商法対策弁護士連絡会（全国弁連、山口広事務局長）は9月27日午後1時から、東京都内で第70回全国集会を開催した。

はじめに全国弁連東京事務局長で弁護士の渡辺博氏が基調報告。世界平和統一家庭連合（旧統一教会＝世界基督教統一神霊協会）の現状は、日本国内での信者向けの「献金」目標が非常に高くなっていることを指摘。裁判で責任を追及するとともに、同団体と関係を持つ自民党国会議員が旧統一教会への責任追及を妨げる「後ろ盾」となっている状況を改める必要性を訴えた。

続いて旧統一教会の元信者二人が体験談を述べた。一人は、総額6千万円にのぼる献金をさせられてしまうまでの手口や脱会後の生活などを語った。二人目の信仰二世の元信者は、子どもの頃から母親から徹底して教えを受けたことで、退会後、社会に出てもなじめない問題などを語った。

このほか日本基督教団深沢教会の齋藤篤牧師が「エホバの証人」の問題点について報告。また江川紹子氏と藤倉善郎氏の二人のジャーナリストが「オウム真理教」事件、「幸福の科学」について講演した。

政治家の旧統一教会集会参加に危機感を表し警鐘

全国集会後、全国弁連は記者会見を開き、旧統一教会が10月6日、愛知県内で大規模な集会を予定していることに対し、全国会議員へ関係を持たないことを求める要望書を送付することを発表した。

全国弁連事務局が10月の集会に有力政治家ら20人が参加するとの情報があるとして、対応したもの。要望書は①旧統一教会の今回の集会に参加したり、賛同メッセージを送るなどしない②旧統一教会やその正体を隠した各種イベントに参加・賛同しない③選挙で旧統一教会信者らの支援を受けない―の3点を訴えている。

山口弁護士は、安倍晋三首相が旧統一教会と親和的で集会に参加する議員が増えているとし、「旧統一教会は反社会的行為を組織的に行ってきた団体であり、今もそれを続けている。政治家が関係を持つことは違法活動にお墨付きを与え、反社会的活動の是正が困難になる」と訴えた。

新刊紹介

近現代日本の民間精神療法―不可視なエネルギーの諸相

栗田英彦・塚田穂高・吉永進一編

戦前、日本では呼吸法、静坐法などの健康法や、さまざまな民間精神療法が流行した。これらは戦後の新宗教の発生とも密接に関連する。本書は、精神療法の技法と思想の系譜を明らかにする意図のもと編まれた論集である。

これらの民間精神療法は、日本の伝統的宗教技法、特に明治新政府の施策によって大打撃を受けた修験道の遺産が源流にある。例えば治病術として明治末に一世を風靡した気合術は、修験道の技術を応用したもので、その創始者・濱口熊嶽は元修験者であった。

もう一つの源流は明治中頃に日本に紹介された欧米の催眠術である。1910（明治42）年に東京帝国大学で千里眼・透視実験が行われるが、これ以降、科学的な研究は行われなくなり、取り締まりの対象にもなっていく。

この後、催眠術などの心理的精神療法は徐々に姿を消していき、指圧や電気、光線、温熱などを用いた物理的療法が健康法、家庭療法などとなって生き延び、また一部が戦後の新宗教に流れ込んだほかは姿を消した。

本書は、序論で民間精神療法の略史を祖述。第1部で物理的療法が海外の理論や技法の日本への定着として論じられる。第Ⅱ部では特に民間精神療法の思想的側面を4人の精神療法家を通して描く。第Ⅲ部では日本発祥で欧米で流行し、近年日本に逆輸入され広まっているレイキ（手かざしによるヒーリング）を取り上げている。

以上を見てもわかるように、日本近現代の民間精神療法の展開は、欧米のオカルティズムとつながる世界的な思想潮流でもあった。

本書は巻末に、約90ページに及ぶ「民間精神療法主要人物および著作ガイド」を付している。キーパーソンと著作物が解説されており、興味を持った部分をさらに深めていくことが可能となっている。

新宗教の思想的源流ともなった近現代日本の精神史を世界的な潮流も視野に入れながら学ぶことができる。（国書刊行会　A5判　420頁　定価4400円）

財団創立60周年記念 ご縁をかたちに、絆を行動に―私からはじまる

全日本仏教会

2017（平成29）年、財団創立60周年を迎えた公益財団法人・全日本仏教会（全仏、江川辰三会長・釜田隆文理事長）はこのほどその記念誌『財団創立60周年記念　ご縁をかたちに、絆を行動に―私からはじまる』を発刊した。

全仏は1957（昭和32）年に財団法人の認可を得て、2012（平成24）年に公益財団法人に移行。財団創立60年を迎えた17（同29）年10月には、記念式典と第44回全日本仏教徒会議福島大会を福島県郡山市で。また翌年11月には世界仏教徒会議（WFB）の諸会議・大会を千葉県成田市と神奈川県横浜市で開催するなど記念の諸事業を展開した。記念誌タイトル「ご縁をかたちに、絆を行動に―私からはじまる」は記念事業のテーマ。

記念誌では記念式典と福島大会、WFB諸会議・大会の詳報、記念事業の記録をはじめ、2009（平成21）年からの10年の歩み、仏教界に関わる課題などをまとめている。（A4判　212頁　非売品　閲覧など問い合わせは全日本仏教会＝電話03―3437―9275まで）